

情緒学級担任の4月スタートチェックリスト

初めて情緒学級を担当する先生向け

すべてを4月の最初から完璧に整える必要はありません。まずは、子どもが安心して過ごせる土台を作るために、できるところから確認していきましょう。

1. 子どもの情報確認

- ☐ 個別の教育支援計画を確認した
- ☐ 個別の指導計画を確認した
- ☐ 前年度担任から引き継ぎを受けた
- ☐ 好きなこと・得意なことを確認した
- ☐ 苦手なこと・不安定になりやすい場面を確認した
- ☐ 落ち着きやすい関わり方を確認した
- ☐ クールダウンの方法を確認した
- ☐ 避けた方がよい刺激や対応を確認した
- ☐ 交流学級での参加状況を確認した
- ☐ 記録だけで決めつけず、実際の子どもの姿を見る意識を持った

2. 保護者に関する確認

- ☐ 保護者の願いや希望を確認した
- ☐ 家庭での様子や困り感を確認した
- ☐ 前年度までの学校との関係や経緯を確認した
- ☐ 連絡帳・電話・面談などの連絡方法を確認した
- ☐ 4月の早い段階で、できたことや安心材料を伝える意識を持った
- ☐ 保護者を「対応する相手」ではなく、子どもを支える協力者として見る意識を持った

3. 校内体制・同僚との連携

- ☐ 特別支援学級の主任を確認した
- ☐ 特別支援教育コーディネーターを確認した
- ☐ 同じ特別支援学級の担任と情報共有した
- ☐ 交流学級担任と関わり方を確認した
- ☐ 支援員の先生の動きや役割を確認した
- ☐ 養護教諭と必要な情報を共有した
- ☐ 管理職に相談すべき場面を確認した
- ☐ 子どもが不安定になったときの校内対応を確認した
- ☐ 「困ったときに誰へ相談するか」を決めておいた

4. 教室環境

- ☐ 教室前面をすっきりさせた
- ☐ 掲示物を貼りすぎないようにした
- ☐ 児童ごとのロッカーや持ち物置き場を明確にした
- ☐ 教材や文房具の置き場所を決めた
- ☐ 教師用の物を子どもが勝手に触れない場所に置いた
- ☐ 触ってほしくない物を出しっぱなしにしていない

- ☐ クールダウンや個別対応に使える余白を残した
- ☐ 子どもが「どこで何をするか」分かりやすい配置にした
- ☐ 子どもに余計な失敗をさせない環境になっているか確認した

5. 予定・見通し

- ☐ 一日の予定を見える形で示した
- ☐ 児童ごとの時間割を確認した
- ☐ 交流学級へ行く時間を確認した
- ☐ 予定変更があったときの伝え方を決めた
- ☐ 今日やること・終わったことが分かるようにした
- ☐ 支援員や他の先生も予定を把握しやすい状態にした
- ☐ 担任の頭の中だけで予定を管理しないようにした

6. 授業の流れ

- ☐ 先生と一緒に取り組む時間を決めた
- ☐ 子どもが自分で取り組む時間を用意した
- ☐ 早く終わったときにやることを決めた
- ☐ 分からないときの動きを決めた
- ☐ 待つ時間に取り組める課題を用意した
- ☐ 既習内容のプリントや作業系課題を準備した
- ☐ 授業の流れを黒板やカードなどで示せるようにした
- ☐ 「何をしたらよいか分からない時間」を減らす意識を持った

7. 記録の習慣

- ☐ 子どもの様子を短く記録する方法を決めた
- ☐ できたことをメモした
- ☐ 不安定になった場面やきっかけをメモした
- ☐ 効果があった声かけや対応をメモした
- ☐ うまくいかなかった対応をメモした
- ☐ 保護者に伝えたいエピソードをメモした
- ☐ 通知表や個別の指導計画に使えるような成長の姿をメモした
- ☐ 記憶ではなく記録に残す意識を持った

8. 4月に無理をしすぎないための確認

- ☐ 4月から完璧な学級経営を目指しすぎていない
- ☐ すべての支援を一人で抱え込もうとしていない
- ☐ 教材を作り込みすぎて疲弊していない
- ☐ 保護者に立派な方針を語ろうとしすぎていない
- ☐ 交流学級との連携を一人で完璧に回そうとしていない
- ☐ 子どもの実態をすぐに決めつけていない
- ☐ 困ったときに相談する相手を持っている
- ☐ 「子どもをよく見ながら少しずつ調整する」という意識を持っている

このチェックリストは、すべてにチェックを入れることが目的ではありません。子どもが安心して登校できること、担任が子どもの実態を少しずつ知っていくこと、困ったときに一人で抱え込まず周囲と相談しながら支援を調整していくこと。そのための確認用として使ってください。